

8-5. 有機農業の推進に関する国の取組⑤優良な取組の顕彰

<<平成30年度的事例>>

未来につながる持続可能な農業推進コンクール（有機農業・環境保全型農業部門）

農林水産大臣賞

有限会社 かごしま有機生産組合

面積：275ha（鹿児島県鹿児島市）

構成員：162名

栽培品目：有機野菜、果樹、茶等 約120品目



▲ 会員は162名まで増加



▲ 鹿児島市内の直営店「地球畑」

● 取組のポイント

- ・ 1984年に10名の農家で8haの面積からスタートしたところから、技術研修会等を重ねることで2018年現在、県内全域162名、275haまで拡大。
- ・ 4年前から、ジュース、ドレッシング、ベビーフード、ベジソースなどの加工品の開発・販売に取り組むとともに、昨年度より輸出に向けた取組を開始している。



▲ 勉強会を地道に続けることによる面積の拡大



▲ 加工品の開発・販売による販路の確保

生産局長賞

香の宮 F & A（島根県江津市）

面積：1.35ha

構成員：18名

栽培品目：有機葉物野菜



● 取組のポイント

- ・ 東京での就職後、Uターンし新規就農。地域で耕作の継続が困難になりつつある農地を活用し、49棟135aまで面積拡大。
- ・ 「いわみ地方有機野菜の会」と仲間とともに、共同販売会社「（株）ぐり〜んは〜と」を設立し、受注・販売に係る生産者の負担軽減に繋げている。



▲ 耕作の継続が困難になりつつある農地を活用した面積の拡大

生産局長賞

（株）アグリーンハート（青森県黒石市）

面積：42ha

構成員：8名

取組品目：水稻、大豆、アスパラ、じゃがいも、にんにく



● 取組のポイント

- ・ 平野部で、ドローン等を活用した先進的な栽培を行う一方、中山間地で休耕状態にあった農地を活用し、有機農業を実践。
- ・ 地元テレビ局のレポーターや青森県の「農業教育サポーター」として、県の一次産業や担い手の魅力を情報発信。



▲ 中山間地の水田を再生し、有機JAS認証取得

生産局長賞

JAみどりのパルシステム米栽培研究会（宮城県遠田郡美里町）

面積：400.8ha

構成員：132名

栽培品目：米、小麦、大豆、たまねぎ



● 取組のポイント

- ・ J Aが中心となることで地域が一体となって、環境保全型農業を地域に定着させたことにより、取組面積は401haまで拡大。
- ・ 消費者を産地に招いた援農体験ツアーや生産者の生産履歴の見える化により消費者との持続的な信頼関係の構築。



▲ 産地交流会の継続により消費者との信頼関係の構築

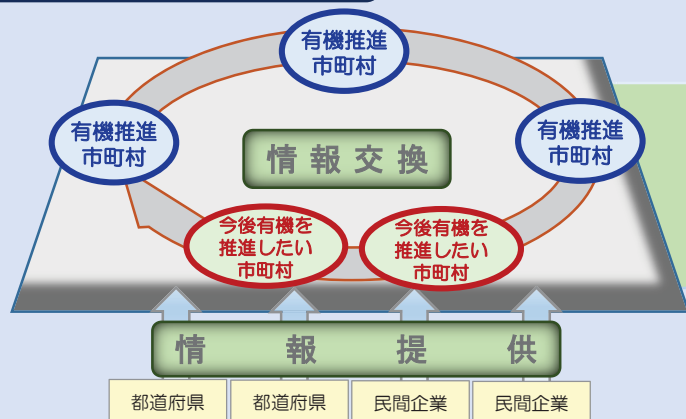
8-6. 有機農業の推進に関する国の取組⑥

有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク

- 有機農業を生かして地域振興につなげている又はこれから取り組みたいと考える市町村や、このような市町村をサポートする都道府県、民間企業の情報交換等の場を設けるため、8月1日に「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」を立ち上げ。
- 当初会員として17市町及び8県が参画。今後、本ネットワークを活用して会員間の相互の交流や連携を促進。

有機農業と地域振興を考える自治体ネットワークについて

有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク（イメージ）



具体的な活動の例

＜自治体ネットワーク構築に向けた交流セミナー＞

日 時：令和元年8月2日
場 所：新宿NSビル（オガニックイスタイルEXPO会場）
参加者：21自治体職員ほか



交流会に参加した市町村の方とともに、本ネットワークの立ち上げを発表しました。



▲当日の資料はこちら
一般社団法人日本有機農産物協会HP



千葉県いすみ市と愛知県東郷町から学校給食の取組事例の発表を、(株)こだわりやから有機加工食品の開発についての講演していただき、その後、ワークショップで意見交換を行いました。

会員一覧

令和元年8月1日現在

市町村会員

青森県	黒石市長	高樋	憲
山形県	川西町長	原田	俊二
山形県	鶴岡市長	皆川	治
千葉県	いすみ市長	太田	洋
千葉県	木更津市長	渡辺	芳邦
千葉県	匝瑳市長	太田	安規
愛知県	東郷町長	井俣	憲治
岐阜県	白川町長	横家	敏昭
兵庫県	丹波市長	谷口	進一
広島県	東広島市長	高垣	廣徳
島根県	江津市長	山下	修
山口県	宇部市長	久保田	后子
徳島県	小松島市長	濱田	保徳
熊本県	山都町長	梅田	穰
宮崎県	綾町長	糴田	学
宮崎県	木城町長	半渡	英俊
宮崎県	高鍋町長	黒木	敏之

都道府県会員

青森県	山形県	宮城県	千葉県
長野県	富山県	福井県	滋賀県

会員数：17市町村、8県

自治体ネットワークに関する情報はこちら→



8-7.有機農業の推進に関する国の取組⑦「有機農業の日」連動セミナー

- 2018年の「有機農業の日」の前日に、有機農業の新たな可能性を考えるセミナーを開催。
- 当日は今後の有機農業を取り巻く社会の姿について自由に話し合うとともに、参加者間が相互に連携できる場となりました。

開催概要

日 時：平成30年12月7日
場 所：農林水産省講堂
来場者：175名（生産者、流通・卸関係者、製造業、金融関係者など）



第1部 「一歩先の有機農業」 (NOAF理事 西辻一真プロデュース)

ICTを活用した農業や農産物の物流分野で先進的な取組を進めている企業の取り組みを紹介。

【ご登壇者】

株式会社オプティム執行役員/ディレクター 休坂健志氏
ウォーターセル株式会社取締役スマート農業推進部部長 藤原拓真氏
株式会社エムスクエア・ラボ 大迫敬介氏
ベルグアース株式会社代表取締役社長 山口彦氏



各社プレゼン資料 ▶

第2部 「もっと自由にオーガニック」

(IFOAM Organic ASIA理事・GOTS地域代表 三好智子プロデュース)

「有機農業」や「オーガニック」の先に広がる様々な可能性を、自由に討論。

【ご登壇者】

さいのね畑 女性有機農業者 竹川麻衣子氏
助産師/3男1女の母 池田美貴氏
棺桶デザイナー/NPO法人フォレストリンク代表理事 白鳥芳洋氏



ひろがる！つながる！ オーガニックの輪

このほか、参加者間が相互に連携できる場を設けました。

- ① 技術・取組紹介ブースに、「一歩先の有機農業」に関係する全12の民間企業等が出展。

出 展 企 業 一 覧

株式会社グリーンフィールドプロジェクト	株式会社オプティム
ベルグアースグループ	東京農工大学
株式会社むさしのタネ	ベジタリア株式会社
株式会社オーガニックnico	ウォーターセル株式会社
株式会社坂ノ途中/次代の農と食をつくる会	株式会社マイファーム
楽天株式会社	
株式会社エムスクエア・ラボ	
株式会社ジャパンバイオフィーム / 一般社団法人 日本有機農業普及協会 (JOFA)	



▲ 技術・取組紹介ブースでの交流



- ② 有機農業等の取組や技術のパンフレットを自由に持ち込みできるコーナーを設置。

◀ パンフレットコーナー

「有機農業の日」連動セミナーの参加者からのお声 (一部)

有機農業の技術が大きく進歩し、有機農業の可能性が大きく広がっていることを感じる事ができた。

多くの角度からオーガニックを知ることができた。

新しいつながりができた。

当日の資料等ははこちら▶

